

安全性データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称

製品名： てんろ混合石灰1号

会社情報

製造会社名： ミネックス株式会社
住所： 岩手県釜石市大字平田第3地割46番地3
電話番号： 0193(26)5110
FAX番号： 0193(26)5255
緊急連絡電話番号： 同上

推奨用途 肥料

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

健康に対する有害性
皮膚腐食性刺激性； 区分 2
眼に対する重篤な損傷性眼刺激性； 区分 2
標的臓器毒性単回暴露； 区分 3
環境に対する有害性； データなし
物理化学的危険性
可燃性固体； 区分外
自然発火性固体； 区分外

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語： 警告

危険有害性情報	注意書き
皮膚刺激 強い眼刺激 呼吸器への刺激の恐れ	取り扱いの際には保護具（手袋、保護メガネ、防じんマスク等）を着用する。 粉塵の吸入を避ける。取扱い後は手洗いを励行する。 汚染された衣類は直ちに脱ぎ、再使用時には洗濯すること。 吸入した場合、速やかに新鮮な空気のある場所に移し、気分が悪い時は医師の診断を受ける。 眼に入った場合、速やかに清浄な水で洗眼する。目の刺激が続く場合は、医師の診断を受ける。 皮膚についた場合、直ちに汚染された衣類をすべて取り除き、皮膚を速やかに水で洗い流す。皮膚に異常があれば医師の診断を受ける。 暴露したとき、または気分が悪いときは医師に連絡すること。 保管は直射日光、水濡れ、湿気、熱を避け一定の場所を定めて行う。

GHS 分類に関係しない又は GHS で扱われない他の危険有害性

この製品の粉塵は眼や呼吸器系に対して機械的な損傷を与える可能性がある。水と長時間接触すると、浸出水はアルカリ性 (pH9~12) を示すことがある。

3. 組成及び成分情報

単一物質・混合物の区別 混合物

一般名または化学名(主原料) 製鋼スラグ CAS No. 65996-71-6
炭酸カルシウム CAS No. 471-34-1

成分情報

化学名	濃度 (%)	CAS 番号	官報公示 整理番号
ケイ酸カルシウム 3CaO・SiO ₂	不明	12168-85-3	(1)-194
ケイ酸カルシウム 2CaO・SiO ₂	不明	10034-77-2	(1)-194
メリライト	不明	—	—
カルシウムフェライト	不明	12013-62-6	—
酸化鉄	不明	1345-25-1	(1)-357
酸化カルシウム	5.22 (遊離 CaO として※)	1305-78-8	(1)-189
炭酸カルシウム	1.0	471-34-1	(1)-122
クロム及びその化合物	0.52 (Cr として)	1308-31-2	—
マンガン及びその化合物	5.22 (Mn として)	1344-43-0	(1)-475

※4.0%遊離 CaO に相当する酸化カルシウム、または水酸化カルシウム、または炭酸カルシウムで存在する。

4. 応急処置

吸入した場合： 速やかに新鮮な空気のある場所に移し、鼻をかませ、うがいをさせる。気分が悪い時は医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合： 多量の水を流しながら、石鹼を使ってよく落とす。外観に変化が見られたり、痛みが続く場合は、医師の診断を受ける。
目に入った場合： 流水で眼を最低15分間洗浄し、眼科医の手当を受ける。
飲み込んだ場合： 直ちに医療処置を受ける手配をする。水でよく口の中をうがいさせる。

5. 火災時の措置

本製品は不燃性である。
適切な消火剤： 泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素
使ってはならない消火剤： 情報なし
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置： 適切な保護具や防火服、防災服、耐火服を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置： 粉じんが発生する場合には、状況に応じて適切な保護具（手袋、保護メガネ、防じんマスク

等)を着用する。

屋内での作業の場合、十分に換気する。

環境に対する注意事項：河川、湖沼等の公共水域に本製品からの溶出水が直接流出し、pH値が高くなることに起因する環境トラブルを引き起こす恐れのある場合には、必要に応じて対策をとる。

封じ込め及び浄化の方法及び機材：本製品は、固体であり、掃き集めて回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策（局所排気・全体排気等）：屋外、屋内で取り扱う場合は粉じんが発生しないように注意する。屋内で取り扱う場合は局所排気等の対策を講じる。

安全取扱注意事項：眼、皮膚等への接触を防ぐために、必要に応じて保護具を使用する。取扱い後は、顔、手、口等を水で、洗浄する。

接触回避：知見なし

保管

安全な保管条件：保管中、粉じんが発生しないように注意する。雨水等による浸出水はアルカリ性を呈するので、河川、湖沼等の公共水域へ直接流入しないように必要に応じて対策をとる。

尚、保管については一定の場所を定めて保管するよう留意すること。

安全な容器包装材料：情報なし

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度・作業環境評価基準（厚生労働省）

粉じん： E = 3.0 mg/m³（遊離けい酸を含有しない場合）

マンガン及びその化合物： 0.05 mg/m³（マンガンとして）

許容濃度（暴露限界値、生物学的暴露指標）

日本産業衛生学会（2020） 1 mg/m³（第2種粉塵、吸入性粉塵）

4 mg/m³（第2種粉塵、総粉塵）

0.5 mg/m³（3価クロム化合物、クロムとして）

0.2 mg/m³（マンガンおよびマンガン化合物、マンガンとして）

保護具

粉じんが発生する場合は、状況に応じ、適切な保護具（手袋、保護メガネ、防じんマスク等）を着用する。

設備対策

屋内で取り扱う場合、管理濃度以下にするため、必要に応じて換気対策をとること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的及び化学的性質の基本情報

物理状態：	粉体
色：	灰色～黒色
臭い：	無臭
融点／凝固点：	データなし

沸点又は初留点及び沸点範囲：	データなし
可燃性：	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界：	該当しない
引火点：	該当しない
自然発火点：	該当しない
分解温度：	データなし
pH：	長時間水と接触すると、浸出水はアルカリ性（pH 9～12）を示すことがある。
動粘性率：	該当しない
溶解度：	水に難溶
n-オクタノール／水分配係数（log 値）：	データなし
蒸気圧：	データなし
密度及び／又は相対密度：	データなし
相対ガス密度：	該当しない
粒子特性：	1.7mm 未満
その他のデータ	
嵩密度：	2.2 t/m ³
その他の情報	
潜在水硬性があり、水分の存在下で長期間保管した場合、固結することがある。	

10. 安定性及び反応性

反応性：	水分の存在下で長期間保管した場合、固結することがある。
化学的安定性：	通常の保管及び取扱い条件では安定である。
IMDG コード 2.8.2.5 に規定する金属腐食性試験結果から、金属腐食性に分類されるだけの腐食性は認められないと判断した。	
危険有害反応可能性：	情報なし
避けるべき条件：	情報なし
混触危険物質：	次亜塩素酸カルシウム、強酸化剤
危険有害な分解生成物：	情報なし

11. 有害性情報

この製品の粉塵は眼や呼吸器系に対して刺激物となる場合があり、機械的な損傷を与える可能性がある。長時間水と接触すると、浸出水はアルカリ性（pH9～12）を示すことがある。

急性毒性：	分類できない
皮膚腐食性／皮膚刺激性：	GHS 判定 区分2；皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：	GHS 判定 区分2；強い眼刺激
呼吸器感作性又は皮膚感作性	
皮膚感作性：	分類できない
呼吸器感作性：	分類できない
生殖細胞変異原性：	分類できない
発がん性：	分類できない
生殖毒性：	分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）：	GHS 判定 区分3；呼吸器への刺激のおそれ
特定標的臓器毒性（反復ばく露）：	分類できない
誤えん有害性：	分類できない

急性毒性

LD50（経口）	ラット	>2000 mg/kg	OECD423
LD50（経皮）	ラット	>2000 mg/kg	OECD402
LC50（粉じん、ミスト）	ラット	>5.90 mg/L	OECD436

皮膚腐食性／皮膚刺激性

ウサギを用いた急性皮膚刺激性／腐食性試験（OECD404）の試験結果、及び文献データから、皮膚腐食性／刺激性の有害性区分に分類されるだけの有害性は認められないと判断した。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

ウサギを用いた急性眼刺激性／腐食性試験（OECD405）の試験結果、及び文献データから、眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性の有害性区分に分類されるだけの有害性は認められないと判断した。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

モルモットを用いた皮膚感作性試験（OECD406）の試験結果、及び文献データから、皮膚感作性の有害性区分に分類されるだけの有害性は認められないと判断した。

この製品は吸入による労働災害は報告されていない。

生殖細胞変異原性

細菌復帰突然変異試験（Ames 試験）：陰性

発がん性

データ無し

この製品は米国国家毒性プログラム（NTP）、米国国立労働安全衛生研究所（NIOSH）、国際がん研究機関（IARC）の発がん性物質に掲載されていない。

生殖毒性

データ無し

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

情報が十分でない。尚、OECD423 に定められた試験の剖検結果では異常が認められなかった。

情報が十分でない。尚、OECD402 に定められた試験の剖検結果では異常が認められなかった。

情報が十分でない。尚、OECD436 に定められた試験の剖検結果では異常が認められなかった。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

この製品の経口、吸入、経皮からの反復摂取による労働災害は報告されていない。

誤えん有害性

この製品の誤えんによる労働災害は報告されていない。

成分の有害性情報

製品中の化合物を構成している成分の純物質としての有害性情報は以下の通り。

クロム及びその化合物

呼吸器感作性： 日本産業衛生学会はクロム化合物として気道感作性物質「第2群」に分類している。

皮膚感作性： 本物質を含むクロム化合物は、日本産業衛生学会で皮膚感作性物質「第1群」に分類されている（日本産業衛生学会許容濃度の勧告（2020））。

1 2. 環境影響情報

長時間水と接触すると、アルカリ性（pH9～12）を示すことがあるため、環境に影響を及ぼさないように注意する。

水生環境有害性 短期（急性）： データなし
水生環境有害性 長期（慢性）： データなし

生態毒性

水生環境有害性 短期（急性）：
96hr-LL50 ヒメダカ(*Oryzias latipes*) >100 mg/L OECD203
48hr-EL50 オオミジンコ(*Daphnia magna*) >100 mg/L OECD202
72hr-ErL50 単細胞緑藻類(*Pseudokirchneriella subcapitata*) >100 mg/L OECD201
水生環境有害性 長期（慢性）：
NOELR ゼブラフィッシュ(*Danio rerio*) 2.0 mg/L OECD212
NOELR オオミジンコ(*Daphnia magna*) 1.0≤NOELR≤2.0 mg/L OECD211
EL10 オオミジンコ(*Daphnia magna*) >2.0 mg/L OECD211
72hr-NOELRr 単細胞緑藻類(*Pseudokirchneriella subcapitata*) 100 mg/L OECD201

残留性・分解性

データなし

生体蓄積性

生体蓄積性を示すデータはない

土壤中の移動性

データなし

オゾン層への有害性

データなし

1 3. 廃棄上の注意

製品を含んだ排水は、関連法令に適合するように十分に注意しなければならない。
外部の業者に廃棄を委託する場合、都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し、関係法令を遵守して適切に処理する。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連番号： 該当しない
海洋汚染物質： 該当しない

国内規制 該当しない

緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号
該当しない

特別の安全対策 輸送に際しては、腐食、水漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
粉じんが発生しない方法で輸送する。
湿気、水濡れに注意する。

15. 適用法令

労働基準法：疾病化学物質（マンガン及びその化合物、クロム及びその化合物）
労働安全衛生法：名称等を表示すべき有害物（酸化カルシウム $\geq 1\%$ 、水酸化カルシウム $\geq 1\%$ 、酸化鉄 $\geq 1\%$ 、マンガン $\geq 0.3\%$ 及びその無機化合物 $\geq 1\%$ 、クロム及びその化合物 $\geq 1\%$ 、）
労働安全衛生法：名称等を通知すべき有害物（酸化カルシウム $\geq 1\%$ 、水酸化カルシウム $\geq 1\%$ 、酸化鉄 $\geq 1\%$ 、マンガン $\geq 0.1\%$ 及びその無機化合物 $\geq 0.1\%$ 、クロム及びその化合物 $\geq 0.1\%$ 、）
労働安全衛生法（特定化学物質障害予防規則）：特定化学物質第2類物質、
管理第2類物質（マンガン及びその化合物 $>1\%$ ）
労働安全衛生法（粉じん障害予防規則）：粉じん作業
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律：
第一種指定化学物質（クロム及び三価クロム化合物、マンガン及びその化合物）
じん肺法：粉じん作業
作業環境測定法：特定粉じん作業

16. その他の情報

参考文献：日本産業衛生学会（2020）許容濃度等の勧告
（<https://www.sanei.or.jp/images/contents/309/kyoyou.pdf>）
化学物質総合情報提供システム（CHRIP）検索画面
（https://www.nite.go.jp/chem/chrip/chrip_search/srhInput）
欧州化学物質庁（ECHA）（2019）”ECHA CHEM”物質データベース
（<https://echa.europa.eu/>）
米国国家毒性プログラム（NTP）（2016）第14次報告書
（<https://ntp.niehs.nih.gov/whatwestudy/assessments/cancer/roc/index.html>）
米国国立労働安全衛生研究所（NIOSH）（2013）基準書
（https://www.cdc.gov/niosh/pubs/criteria_date_desc_nopubnumbers.html）
国際がん研究機関（IARC）（2020）発がん性リスク一覧
（<https://monographs.iarc.fr/list-of-classifications>）

【注意】本 SDS は、JIS Z 7253:2019、JIS Z 7252 : 2019 に準拠し、作成時において入手可能な使用原料の SDS に掲載された製品情報、有害性情報に基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。
また注意事項は通常の実施を前提としたものであって、特別な取扱いをする場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。
記載内容は情報の提供であって、保証するものではありません。